各分科会からの報告

専門職とサービスの質

介護福祉士・看護師を目指す若者に対する修学前の職業教育導入の可能性
—デンマークにおける基礎コース（Grundforløb）を参考に—

浦和大学短期大学部
高木　剛

はじめに

日本では急速な少子高齢化の進行により、何らかの疾病を患いながらも住み慣れた地域で生活をする要介護高齢者等が増えている。このような高齢者等に対する支援には、介護福祉士や看護師といった福祉・医療職が不可欠であるが、新聞・雑誌等で話題になっているとおり、これらの職業は他の職業に比べて離職率が高い状況にある。しかも、これらの人材を養成する専門学校や大学等（以下、養成校）においては、入学志願者が減少していたり、入学しても「中途退学」するケースが少なくないなど、人材確保が厳しい状況にある。とりわけ養成校の学生が「中途退学」する状況に対しては、各養成校で対応策（学生・保護者との面談等）を講じているものの、十分な効果が出ているとは言いがたい。

「中途退学」の主な理由として「進路変更」がある。近年の若者に特徴的な、職業意識・職業感の未熟さや、明確な目的意識がないまま安易に将来の職業選択をする傾向にある[1)]ことから、養成校へ入学後に授業に興味が持てなくなることが、その大きな要因であると考えられる。

このような状況の中、中央教育審議会より「キャリア教育」の推進が提唱されているが、キャリア教育は社会人・職業人として自立するための基礎的・汎用的な能力・態度を育むことを目的としているため、高校生（とりわけ普通科の生徒）等の若者が、介護・看護の職業の具体的なイメージをもつことは難しい。自らの職業選択を明確にするためにも、今後は養成校へ入学する前に、これらの職業をより具体的にイメージできるような仕組みが望まれる。

ところで、先駆的な福祉国家であるデンマークでは、様々な職業に対応した職業教育制度が整っており、とりわけ介護・看護などの福祉・医療分野の教育課程（以下、SOSU）には、「基礎コース」（Grundforløb）と呼ばれる、いわば「お試し」の教育課程が設けられているなど、日本には見られないユニークな仕組みがある。本研究では、今後の介護・看護人材（介護福祉士・看護師）の確保に寄与するため、これらの職業イメージをより明確化する職業教育導入の可能性について、デンマークの「基礎コース」を参考に考察した。

1．研究方法

デンマーク在住のK氏からの情報提供に加え、介護福祉士・看護師の養成校のホームページ（情報公開による中途退学率等のデータ）、厚生労働省・文部科学省の審議会等の資料、並びにデンマーク教育省のホームページ（SOSUの概要）、その他、各種文献・資料等により整理した。

2．倫理的配慮

情報提供者K氏には、本研究の趣旨を説明し、情報記載について同意を得た。

３．用語の定義

本研究における「職業教育」とは、介護福祉士・看護師などの養成校で専門的学修をするにあたり、その者の適正や希望を確認するとともに、当該職業に不可欠な基礎的な専門的知識・能力等を身に付ける教育である。広義の「キャリア教育」(中央教育審議会)に含まれる。基礎的な専門教育(体験的な実習等を含む）を受けることで、職業のイメージをより明確化するねらいがある。

４．介護福祉士・看護師養成校における中途退学者の状況

介護福祉士又は看護師の養成校においては、中途退学する学生が少なくないのが現状である。介護福祉士を養成する学科・専攻等における中途退学者の状況として、例えば、S 短期大学（情報公開：2012 年度データ）においては、音楽や幼児教育保育などの各学科の中途退学率が 1.0 ～ 9.5％であるのに対し、介護福祉は 21.3％である（表１）。また O 短期大学（同：同年度データ）においては、子ども福祉が 5.5％であるのに対し、介護福祉は 10.3％である。

一方、看護師養成における中途退学者の状況としては、「看護関係統計資料集」によれば、看護師の養成校（３年課程）では、1997 年度 7.8％であったが年々増加傾向にあり、2005 年度には 11.6％となっている。具体的な例として、J 看護専門学校（情報公開：2011 年度データ）においては、中途退学率が 16.5％、M 短期大学（同：同年度データ）では 11.5％、T 看護短期大学（同：2010 年度データ）では、20. 3％となっている。

なお、介護福祉士や看護師養成に限った話ではないが、全国の大学等における中途退学者（2008 年度）の主な理由として、経済的理由（15.6％）に次いで、進路変更（14.5％）が高い割合を占めている[2)]。

５．高等学校におけるキャリア教育

中央教育審議会は、「社会人・職業人として自立が迫られる時期である高等学校段階のキャリア教育の充実は喫緊の課題である。」としたうえで、「とりわけ普通科においては、目的意識が希薄なままとりあえず高等教育機関へ進学している者が少なくないことから、キャリア教育の充実が求められる。」と指摘している[1)]。

キャリア教育は大半の高等学校で実施されているものの、依然として未実施の高等学校が約６％存在しており、また、キャリア教育を実施していても、その趣旨が曖昧である場合が少なくない[3)]。さらに、キャリア教育の中核であるインターンシップの実施率は、公立の高等学校では 76.4％であるのに対し、私立では 41.2％と低調なうえ、実施期間は３日間以内（短期間）が約 91％を占めているなど、必ずしも十分な教育効果を得られない状況にある[4)]。

６．デンマークにおける介護・看護人材養成の概要

表１．介護福祉士養成校における中途退学者の状況（一例）

養成校	学科・専攻	中途退学者数（名）	中途退学者の割合（％）
S短期大学	音楽	1	4.6
	幼児教育保育	1	1.0
	ビジネスコミュニケーション	5	6.3
	食物栄養	4	9.5
	介護福祉	16	21.3
O短期大学	子ども福祉	7	5.5
	介護福祉	7	10.3

出典）S短期大学及びO短期大学ともに、情報公開（2012年度）のデータより筆者作成

このような日本の状況に対して、海外ではどのような取り組みがなされているのだろうか。ここでは、先駆的福祉国家で、様々な職業教育制度が整備されているデンマークの事例を概観する。

デンマークの職業教育は、義務教育修了後に始まる。その進路は大きく分けて２つある。一つは、将来大学を目指すための教育課程で、もう一つは卒業後に職業に就くための教育課程である。前者の大学を目指す教育課程として、高等技術系教育試験課程（HTX）、高等商業系教育試験課程（HHX）、高等教育準備試験課程（HF）、そしてギムナジウムと呼ばれる普通高等教育課程（STX）がある。一方の職業教育を受ける教育課程には、職業訓練課程（EUD）、職業基礎訓練課程（EGU）、商業教育課程（HG）、SOSU などがある。このうち、SOSU は主として、介護・看護分野の人材養成を目的としている。

デンマークにおける介護・看護の担い手として、社会保健ヘルパー（Social-og sundhedshjælper）、社会保健アシスタント（Social-og sundhedsassistent）、看護師（Sygeplejerske）が挙げられる。これらは 1991 年施行の「社会保健基礎教育法」（Lov om grundlæggende Social-og sundhedsuddannelser）により、段階的な養成制度（図 1）が採られており、また、これらの資格取得を目指すにあたり、「基礎コース」と呼ばれる、基礎的な学修課程を修了することが求められている[5)]。

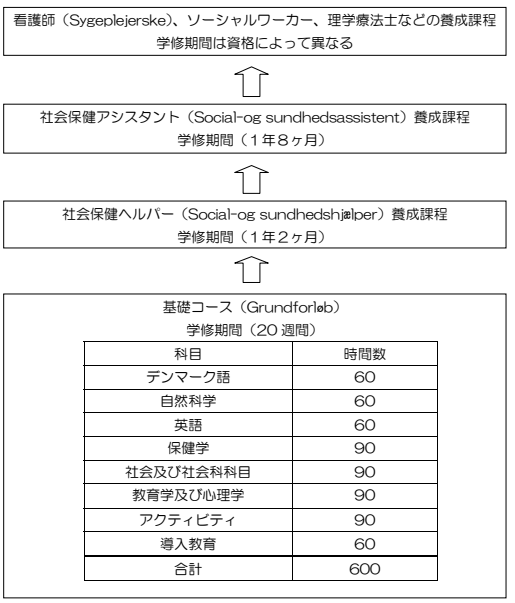
基礎コースの目的は、社会保健ヘルパーの養成課程へ進むための専門的・個人的能力を高めることである。そのために、この基礎コースではこれらの職業への適正や、自身の希望を確認したり、専門的な学修をするうえで必要な能力を身に付ける。通常、基礎コースの就学期間は 20 週間とされているが、学修状況が不十分であったり、自身の適正や希望をより明確化したい場合などには、さらに 20 週間延長することができる。教育科目として、デンマーク語（60 時間）、自然科学（60 時間）、英語（60 時間）、保健学（90 時間）、社会及び社会科科目（90 時間）、教育学及び心理学（90 時間）、アクティビティ（90 時間）、導入教育（60 時間）があり、合計 600 時間が必要とされている。

基礎コースを修了後は、希望に応じて社会保健ヘルパーや保育士の養成課程に進むことができるが、万が一、適正や学修状況などに問題がある場合には、他の職業への進路変更や社会経験を積んでから再入学することなどが指導される。

７．日本への示唆

デンマークの基礎コースは、福祉・医療職を目指すための土台として、養成制度に組み込まれており、福祉・医療分野の基礎的・専門的教育を受けながら、当該職業に対する自身の適正・希望等を確認することができる。そのためか、SOSU では途中で一旦退学する若者が 20％位はいるものの、後で彼らは再入学し、介護・看護の学修を継続するようである[6)]。このような仕組みは、日本のキャリア教育とは異なり、職業のイメージを具体的に身に付けることができるため、より効果的な職業選択につながることが期待できる。

日本とデンマークでは教育制度が同一とはいえ



科目	時間数
デンマーク語	60
自然科学	60
英語	60
保健学	90
社会及び社会科科目	90
教育学及び心理学	90
アクティビティ	90
導入教育	60
合計	600

図１．デンマークにおける介護・看護人材養成システム

ず、基礎コースのような教育課程を、介護福祉士・看護師の養成課程に組み込むことは容易ではない。しかし、十分な効果が期待できるのであれば、福祉・医療職養成の再編（一体的な制度化）に合わせて、そのベースとなる職業教育の課程を設けることも検討の余地はあると考える。

おわりに

職業教育導入の可能性を考えるにあたり、デンマークの基礎コースを参考にした。とはいえ、日本において基礎コースについての研究成果が皆無に等しいこともあり、まずはその概要を整理することに留まった。基礎コースの具体的な教育内容や効果などについては、今後の研究課題としたい。

引用・参考文献

1）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」中央教育審議会，2011.

2）「各大学等の授業料滞納や中退等の状況」文部科学省，2009.

3）「2012 年高校の進路指導・キャリア教育に関する調査報告書」リクルート，2013.

4）「職場体験・インターンシップに関する調査研究・報告書」国立教育政策研究所生徒指導研究センター，2007.

5）高木剛「デンマークにおける介護福祉専門職の養成教育」『総合ケア』第 15 巻，第 10 号，pp79-83，2005.

6）塩田咲子「デンマークの社会福祉保健養成学校を訪ねて」『地域政策研究』第 9 巻，第 1 号，p76，2006.

7）青木真理・谷雅泰他「デンマークの若者はどのように進路選択するか－ガイダンスセンターでの調査をもとに」『福島大学総合教育研究センター紀要』第 8 号，pp39-46，2010.

8）日本弁護士連合会・貧困問題対策本部『デンマーク調査報告書』2011.

9）白山靖彦・野口康彦「福祉系大学における学生の職業選択に関する要因の検討」『静岡英和学院大学紀要』pp285-291，2010.

10）礒本章子・工藤雄行「看護師と介護福祉士の職務継続要因－職業選択動機に関する検討」『弘前医療福祉大学紀要』第 2 巻，第 1 号，pp47-54，2011.